

## 明石「魚の棚商店街」

姫路城を堪能して、JR 神戸線で姫路駅から明石駅に向かった。明石は神戸市の西に位置し、大阪湾と播磨灘を結ぶ明石海峡に面する。「海峡のまち」という看板が印象的であった。

明石駅を南へ国道2号線を渡ると「魚の棚商店街」が見えてくる。ここは明石城築城と前後して営業を始めてから、ざっと 380 有余年の歴史がある。今昔ものがたりというチラシでは、「魚の棚」の由来は鎌倉時代から魚商人が大きな板を軒先にずらりと並べ、鮮度を保つために並べた魚に水を流していた様子からきているという。



とれたての新鮮な魚介を扱う店が 100 店以上立ち並んでおり、威勢のよい売り声が飛び交っている。活気を感じさせる商店街だ。明石名物といえばタコであり、「明石焼」である。配布されていた明石・中心市街地まちづくり推進会議のチラシによると、地元では「玉子焼」と呼



ばれており、大阪の「たこ焼」のルーツという。商店街の真ん中に位置する店に入り、「明石焼」を注文した。あげ板の上に並んだ黄色の丸い「明石焼」を口に入れると、ふんわり、とろり、最後にこりとした大好物のタコの歯ごたえ。初めて食べたが、なかなかの美味であった。



(2010年3月22日 記)